

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371500766		
法人名	株式会社アイ・ユーネット		
事業所名	グループホームとまり木名東		
所在地	名古屋市名東区猪子石三丁目113番地ワークステーションビル1F		
自己評価作成日	平成25年 3月 5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JgyvsvoCd=2371500766-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JgyvsvoCd=2371500766-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成25年 3月22日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の満足度を高めるために、その方に合わせた暮らしの支援ができるように利用者様との会話や希望等から職員と一緒に手作りの夕食作りやおやつ作り・漬物作りなどを行ったり、日帰り旅行で季節感を味わっていただいたり、喫茶店や図書館・買い物などの外出も行き、楽しく過ごして頂けるように支援している

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度のホームは、新人の職員が多く配置される等体制が変わり、ホームの「組織づくり」に重点を置いて運営を進めてきた。  
結果、人材が育ち始め、職員の声が介護の現場に多く反映されるようになった。介護計画の作成では、職員の提案からセンター方式を取入れ、チームケアで利用者を支援する体制が整いつつある。  
また、利用者の暮らしをフレキシブルに支えたいと、リクエスト料理やおやつ作り、外出に力を入れ、利用者が楽しんで暮らせる機会を作り出している。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・理念は「最善の介護サービスを最高の誠意と人間愛を持って」であり、支援方針へのおとしこみしており、ミーティングで理念のあり方を共有し、フロアに掲示し、常にサービスに対する意識を持つように努めている	法人代表者が、ホーム理念を職員一人ひとりに、入社時や日々の業務の中で伝えている。職員も理念を念頭に実践に当たり、その都度話し合い等で確認を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事(お祭り・敬老会など)への参加や散歩などで事業所周辺の託児所やスタンドの方などとあいさつなどを混じえた交流しており、ボランティアの訪問もある	地域の情報は回覧板で収集している。地域の夏祭りには、ホームから数名参加をしている。天気の良い日には散歩に出かけ、近所のガソリンスタンドのスタッフや保育園の園児などと挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、ホームの現況や対応をお話させて頂いたり、意見交換で理解を深めて頂ける様に努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・行事等、ご家族様、地域住民の代表者様・提携医療機関様に報告している。写真を見て頂いたり、その中でご意見を頂いたり、質問に対して返答したりして、連携を図っている。取り組んでいきたい内容を報告し、その経過、成果なども報告している。	今年度は会社方針として、「組織づくり」を行っており、地域に向けての積極的な活動には至らず、運営推進会議の開催は1回であった。	外部メンバーの参加と定期的な開催ができるよう、今後の努力に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営上の疑問点や他施設の対応方法などの市町村との意見交換により、サービスの質の向上に努めている。区役所に行事報告書・運営推進会議議事録をお渡しして、活動状況等を把握していただく様にしている。	利用者について、区の保護課と密に連絡を取り合っている。連絡や相談等を行う際に、併せてホームのイベント等、活動状況を報告している。	地域包括支援センターの職員が運営推進会議に参加することで、連携をさらに強化することに期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングにて身体拘束について勉強会を実施して、今行っているケアの再確認を実施し、天気のよい日は、玄関のドアを開放して、花の水やりや日光浴、花の観察を職員と共に行っている。なるべく施錠しなくてもいいようにチャイムなどを設置したり、見守り強化に努めている。	定期的なミーティングと併せて、身体拘束や個人の尊厳についての勉強会を行っている。特に、利用者の尊厳については理解を深め、ケアに反映させたいとのホーム方針により、継続的にミーティングの議題として取り上げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングにて勉強会を実施し、虐待について正しく認識し、事務所にも言葉による虐待の資料を掲示して、意識を高めることで防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な方には、働きかけをして活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を読むだけでなく、具体的・事例をあげて説明して、ご理解・安心して頂ける様に努めている。不明そうなこと、疑問点をだして頂きやすい雰囲気作りをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でだされた意見を前幹に検討し反映できるように努め・訪問時は、直接お話をできる機会などで、意見等を頂けるよう努めている。その他3ヶ月に1回介護計画についてご意見頂けるような取り組みをしている。	家族の面会時に意見を聞きとっており、「入浴の回数を増やしてほしい」など、具体的な内容が話し合われている。遠方の家族へは、ホーム便りと近況が伝わる写真を同封し報告を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケアの本質を考え、現場の自発性を最重要視し、ミーティングで活発な意見交換できるよう、努めている。意見箱を設置し、提案について皆で運営できるよう様、努めている。	定期的なミーティングがある。職員よりセンター方式の取り入れの案が出たところ、早速試行する等、職員の意見や要望は積極的に話し合い、日々の業務に反映させるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場状況・勤務状況等把握し、話す機会も設けて、考えていること、悩んでいること、成果などを話すことにより向上心に繋げている。労働条件も、見直しました。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミーティングで日々のケアの目指すものなどを皆で共有できる様にして、皆で成長していけるように努めている。その他、外部の研修に積極的に参加できるよう努めて、ここでのレベルアップも図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修等で同業者とのグループワーク等で情報交換したり、他施設の行事ごとなどに出かけサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談やアセスメント情報からご本人と共通の課題を見つけ、職員と同じテーブルでお茶を飲んだり、しながら、会話する機会をとれるように努めており、ご本人が安心して生活できるよう気持ちを受け止めるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話に耳を傾け、ご家族の思いも受け止める様に努めている。スタッフが情報を共有して、ご家族様が不安な点などをお話して安心して頂ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が必要か見極めて、出来ること・できないことを明確にして、出来ることは、ご本人の能力を最大限発揮できるようサービス提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々にできることは、職員と、共に行って頂き、共感して頂いている。いっしょにやって頂いた時は、必ずお礼を言い、喜びや楽しみを感じながら、安心した生活を送って頂き、信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設とご家族さまの両方で支援するよう心がけ、行事に参加していただいたり、面会時などに写真等を見て頂いたり、情報交換しながら利用者さんが安心して生活できるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・訪問された方は、家族の一員としてお迎えする様にしている。ご本人様の経歴・価値観・性格など全てにおいて理解する様努めている。ご家族様以外のなじみの方などにも、手紙や写真を送付している。	家族との関わりが希薄にならないように努めている。家事が好きな利用者には洗濯物をたむ等、できることを続けられるよう支援している。年賀状のやり取りでは、職員が支援し、家族や知人等と交流を続けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のレクリエーションや行事等で職員が間に入り、コミュニケーションを図って孤立しないように配慮している。様々なことを共にして利用者様同士もお互いを知り、支え合えるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方も、遊びに見えたり、電話等で状態経過を聞き、相談・アドバイスをさせて頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者さんの希望や重い等を直接聞いたり、困難な場合は、本人の喜びや楽しみ等が感じられるような点に視点をおきながら、職員全員が把握し、支援に繋げるようにしている。	意思の疎通が難しい利用者には、表情や行動から思いをくみ取るように努めている。職員全員で、利用者をさらに理解しようと、センター方式を取り入れ、その人らしい暮らしを支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者さんの生活歴等の情報提供が得られるように御家族に理解して頂き、事業所独自の用紙に記載してもらい、職員全員が把握し、本人らしい生活ができるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、コミュニケーションをとりながら、御本人のできることをみつけ、生活の中に取り入れる様に話し合いの場を設けたり、実際に行って頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人に直接意見や子棒を聞いたり、家族には3か月に1度意見書に記入して頂いたり面会時に意見を伺ったりしてカンファレンスの時の時に職員と利用者の課題や支援などの話し合いを行う際に意見を取り入れたりまたプランに反映できるように意見交換を行い、また定期的に見直しを行っている	家族から提出のあった意見書の内容を取り入れ、介護計画の見直しを行っている。職員カンファレンス等を通して意見交換を行ない、チームケアを実践するよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果等が介護記録表・介護日誌・申し送り・ノートに記載し、職員全員が情報共有を徹底して、ケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者さんのニーズに当施設で可能なことは、積極的に取り組む姿勢で、様々な支援を積み重ねて、満足度の向上につながるよう、努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアさんの方や、医療関係・地域の方々の飲食屋さん等、さまざまな方たちに支えて頂きながら支援できる様に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	面談時に馴染みの医師の確認・提携医療の説明・同意を頂いております。利用者様が気軽に医師に相談できる環境を整えるよう努めている	かかりつけ医への受診時には、職員が利用者につき添う等の支援をしている。月2回、提携医の往診があり、利用者の状態に合わせて臨機応変に対応をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護との契約により、週一回の健康チェックを実施して頂きながら、情報共有し、疑問に思うことや相談等を密に図れるように努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日常から、入院回避の為、小さな変化も見逃さない様、努めている。入院になった際は、情報提供を積極的に行い、病院・提携医療機関等密に連携を図り、早期退院できるよう努めている。面会に行き、少しでも安心して頂ける様、努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の状況・他利用者様の状況に合わせて、主治医・訪問看護・施設・ご家族で話し合う場を設けて、主治医から医療的な見解をご家族に話して頂き、希望等をお聞きして、医療連携で可能な支援を明確にお伝えして、希望に沿うように努めている。段階的に話し合いの場を設けている。	契約時に、重度化や終末期についてのホームの方針を家族に説明している。医療行為が必要になった場合、医師を交えた話し合いの場を設けている。利用者に対して最善の支援に努め、他施設への転居等、家族への助言や他事業所への連絡等行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	避難訓練の際に応急手当を実施しており、日常で急変が起きた場合は、記録に出来るだけ詳細に記入して、情報共有するように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し、避難誘導の方法・各役割の把握し、自力で避難ができない方に搬送練習等行っており、非常食等も準備してある。	防災マニュアルがあり、夜間想定を含め年2回、避難訓練を行っている。今後、新人職員の搬送訓練や連絡網の作成を予定しており、いざという時に全職員が対応できるよう体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、個々の気持ちを思いやり、各利用者様個別ケアの基本とし、大切に思うことで意識の向上を図っており、尊重した言葉使い、接する態度を意識する様に努めている	利用者と職員の心の垣根のない、アットホームな雰囲気大切に、利用者の話を否定しない対応をしている。利用者一人ひとりに合わせた支援を話し合い、人として当たり前で尊重するケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望や思いを、表情や反応で気づいてあげ、支援に繋げる様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の精神状態や健康状態を把握し、個々にあった生活の流れを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で服を選んで頂き、個性・精神の安定につなげて、服をおほめしたりして、楽しみの一環にして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理から食べている時・片付け等、声かけあいながら、積極的に参加して頂き、コミュニケーションを図り、楽しんで頂いている。	包丁を使わなくても、味見やゆで卵の殻むき等、利用者の調理したいという気持ちに沿えるよう支援している。「リクエストメニュー」があり、とんかつやちらし寿司など、利用者の希望を叶える日を設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や水分量をチェックして把握し、一人一人の偏りや不足がないよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後は、口腔ケアの声かけをして、全員の方に見守りや介助を行い清潔保持・感染症予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立を目指し、ひとりひとりの排泄感覚を把握し、声かけ誘導・介助・見守りを行っている。	歩行可能等、利用者の状態に合わせて、トイレでの排泄を基本としている。排泄チェック表があり、利用者個々の時間等のパターンを把握し、トイレへの誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便の日数を把握し、自然に排便できるように、食事の内容を考慮したり、おなかの体操をして、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調にも配慮し、拒否がある方も入って頂ける様に工夫して、声かけや誘導や入浴方法も個々に合わせた支援に努めております。	脱衣場のボードに「入浴したい人は職員に声をかけてください」と掲示しており、毎日の入浴も可能である。入浴を好まない利用者に対し、「一番風呂ですよ」と声をかける等工夫を凝らし、楽しい入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後や運動後は、休息をとって頂き、日中活動して頂き、夜は十分に睡眠がとれるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人ごとのファイルに処方せんを入れて確認し、服薬の目的・量・作用・副作用等を把握して状態の変化をチェックし、飲み忘れ・誤薬のない様に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとり生活の中で合った役割を楽しんで頂き、満足感を持って頂いている。好みの飲み物を飲んで頂き、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	健康管理に注意して、今しかできないことを大切に散歩・外出・喫茶店・食事等に外出している。定期的なバス旅行に出かけ、気分転換に努めている。	気候や利用者の体調を見ながら、散歩や日用品・食料品の買い物、喫茶店へ出掛ける等、日常的に外出に力を入れている。バス旅行では公園や動物園に出掛け、利用者の楽しみの機会を作っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日々お金を管理して持たれて見える方はみえないが、買い物・外出の際には、社会性の継続・喜びを目的としてお金を持って頂き、お支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいときは、掛けて頂いております。手紙や年賀はがきもご自身で書いて頂くよう、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の衛生面や整備に努めている。各利用者様が落ち着いて過ごせる空間づくりに工夫し、壁にも季節感を取り入れている。その他、室温・光・湿度に配慮して心地よい空間になる様、日々配慮するよう努めている。	清潔で、利用者が快適に暮らせる環境を整えることが大切と考えている。1階の食堂兼リビングには音楽が流れ、食後にソファでくつろぐ利用者がみられた。清掃は職員が行っているが、時折利用者も参加している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者様同士で過ごせるよう配慮したり、ひとりが良い方には、落ち着ける場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が今まで使われていた家具や布団や写真・仏壇などを使って頂き、少しでも安心して生活して頂ける様に努めている。	利用者の個性が感じられる居室作りを支援している。大半をベッドで過ごす利用者には、家族と相談してエアマットを導入する等、快適に過ごせるよう話し合った。テレビや使い込んだ筆筒を置いた居室もあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりの身体状況・周辺状況に合わせて危険防止・安全な環境づくりに努めている。		